

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2018-002
2.研究課題名	自閉症スペクトラムの女性の「社会適応」に関する研究
3.研究期間	平成30年12月10日～平成33年3月31日
4.研究の概要	<p>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。）</p> <p>本研究では、自閉症スペクトラム（ASD）の女性の「社会適応」について、当事者自身の障害認識を明らかにすることを目的とする。</p> <p>ASD者が経験する社会生活上の困難は、障害そのものや基盤となる生物学的な要因だけではなく、社会環境的な要因との相互作用によるものが大きいと考えられる。そのため当事者が置かれている生活環境において、障害特性による具体的な困難を捉え、それに応じた支援の検討が重要である。特に、本研究が対象とするASDの女性の場合には、適応的な行動によって困難を「カモフラージュ」するために、一見問題がないように見えることも少なくない（Attwood, 2007）と指摘されている。しかしながら一般的に、女性は対人コミュニケーションや、家事・育児といった女性としての役割について社会的期待や要請が多い環境にいるために、ASDの女性は障害特性による困難も大きくなるものと考えられる。すなわち、ASDの女性は、女性としての「社会適応」においてASDを持つことによる困難を経験し得るものの、表面的な適応スキルによってそれが見過ごされている可能性がある。そのため、当事者の視点からASD特性を持って生きることによる困難、すなわちASDによる社会適応上の「障害」を捉え直すことで、女性のASDに関してより深い理解につながると考えられる。また、当事者の声をボトムアップ的に描き出すことで、当事者の認識と一般的な理解との齟齬を調整していくような介入アプローチや、実態に沿った支援への示唆が得られると考えられる。</p> <p>本研究では、ASDの当事者に対する調査であり、障害特性に関する事項を扱い軽微な侵襲が生ずる可能性が0ではないことから、川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会に申請を行うものである。</p> <p>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</p> <p>ASDの成人女性100名程度であり、平均的な知的水準であり、重篤な精神疾患を伴わないこと、診断を医療機関で精神科医によって受けたことを条件とする。ただし、ASDの女性は男性と比べて人数が少なく、本研究で想定する対象者を集めきれない可能性がある。その場合には、「発達障害」の成人女性を対象を広げ、ASDだけではなく、ADHD等の他の発達障害を持つ女性も対象とする可能性がある。なお、ASDではしばしばADHD等の他の発達障害が併存するため、「発達障害」に対象を広げることは本研究の目的の達成を妨げるものではないと考えられる。</p> <p>協力者の募集については、発達障害者の当事者会、発達障害者支援センター、就労移行支援事業所等において行う。</p> <p>本調査に先立ち、ASDの女性当事者数名に対して、「社会適応」に</p>

	<p>関するインタビューを行い、予備的な知見を得る。その上で、本調査では自由回答法を含めたアンケート調査を実施する。</p> <p>主な調査項目は以下のものを予定している。</p> <p>①基本情報（年齢，診断名，併存障害，生活状況等）</p> <p>②自閉症の特性に関する質問項目</p> <p>③QOLに関する質問項目</p> <p>④社会適応に関する質問（予備調査より抽出）</p> <p>※予備調査については、本調査に先立って「社会適応」に関する項目の作成や、研究全体の基礎的な知見を得ることを目的として、機縁法によって女性当事者数名に協力を求め、インタビューを行う予定である。インタビュー調査の参加にあたり、協力者に1000円分の図書カードもしくはクオカードを謝金として支払う。</p> <p>なお、本調査の参加者に対する謝金の支払いは行わない。</p>
	<p>問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）</p> <p>教育学研究科教育心理学講座臨床心理学分野 (022-795-6145)</p>

(紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。)